共同子育て連絡会通信

10号

2024年6月

10号の内面は「子どもが出会うおとなが考える～子ども参加の視点～」です。子どもにやさしいまちづくり事業では、昨年度、子ども参加をどう考える？と、２回学習会を実施しました。その後、様々な集まりに参加すると、子ども参加の視点で話されているのを感じます。私たちが参加した集まりの報告から、皆さんと「子ども参加」を意識したいと思いました。

下記の学習会で話しましょう！

私たちは人と人とのつながりを大切に、子どもの人権・権利をキーワードに、いろいろな立場の人に出会い、話し、学びあっています。

今回は、『はらっぱ』6月号特集「災害と子どもの人権」を読み、感じたこと、考えたことを話しましょう。災害時に子どもが感じた声も記載されています。子どもの人権の視点から、自助・共助・公助をどう捉える？子どもとの生活から考えてみましょう。

学習会のお誘い

子どもが出会うおとなが考える

～『はらっぱ』6月号特集「災害と子どもの人権」を読んで～

日　時：2024年7月21日（日）14時～15時半
場　所：Zoom
対　象：どなたでも（会員外の方は『はらっぱ』6月号をご購入の上ご参加ください）
参加費：無料
申込み：準備の都合上7月18日（木）までにご連絡をお願いします。

公益社団法人子ども情報研究センター　「共同子育て連絡会」
メール：renraku@kojoken.jp　合田由紀子　南田安紀子　国松祐子
電話：06-4708-7087　住所：大阪市港区波除4-1-37　HRCビル5階

子どもとのひとコマ

また泣いてる…。隣の子、３歳と１歳。夕方帰ってきたとき、３歳の子が必ず、家に入りたくないって泣いてる。なんでやろ。

ママからしたら、一秒でも早く家に入りたいはず。疲れてるし、大きな荷物置きたいし、ご飯もつくらなあかんし…。けど、子どもは毎日そこで激しく抵抗する。ママもあの手この手でご機嫌とろうとしてるけど、全然きかない。子どもたちだっておなかすいてるやろうに、「早よ入っておやつ食べよ」のママの声にも「いや～!!」。

「折り合いをつける」っていうことを思い出す。うちの子たちが小さかったときも、子どもと親の思いはしょっちゅう食い違い、「どう折り合いをつけていくのかが子どもとの生活やなあ」と思ったこと。

子どもが泣くのも、いやだ！と言うのも子どもの権利。でも、おとなにも思いがある。それをお互いぶつけあうだけでは並行線。なんとかその場を収めて親が「折り合いをつけた」と思っても、子どもは「押し切られた」って思うかも。難しいなあ。

ただ、そんなとき誰かがちょっと入っていくだけで、ふわっと空気が和んで、一呼吸おけたりすることもあるんじゃないかな～と思う。今度、泣き声が聞こえたら、ふわ～っと声かけてみようかな～。（K）

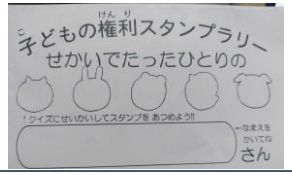
２歳のSさん。「自分で自分で」が増えてきた。保育園でお昼寝前のトイレのあと自分ひとりでズボンを履くと言う。足を入れてもスルリと抜けてうまくできない。眠たいのもあいまってイライラギャ～～！「手伝うよ」と手を出すと断固拒否。それでももう限界かなと思い無理やり履かせた。

布団の部屋に行っても泣き声が響き渡る。そこではなんと、自分でズボンを脱いでもう一度挑戦しているらしい。時間はかかったが、最後は自分で履いて寝たそうだ。

一方、２歳のHさんも主張が激しい。家族にひとつずつおみやげでドーナツ買って帰った。大皿に盛り、ひとりずつ取っていくと、急に大声で泣き出した。どうやら全部自分のものと思っていたようだ。誰かが一口食べるたびに「わたしのものを食べないで～」と泣いてアピール。それでも、みんなは食べてしまうので、泣きながら自分の分を食べた。全部は食べれなかったけれど４歳の兄から少し分けてもらってうれしそうだった。

子どもたちのこのストレートな主張を尊敬したい気持ちになった。 主張（自分で選んで自分でする）が達成すると、納得ができることもあるし、また、主張が通らなくて、納得できないこともある。しかし、伝えることができる、聴いてもらえる人がいる、そんな相互のやりとりを子どもたちから学びながら大切にしていきたい。（Y）

子どもが出会うおとなが考える～子ども参加の視点～



【はらっぱを読む会　4/21 】

テーマは特集『青木悦さんと「人権」～『黙婆』刊行に寄せて』。参加者は特集執筆者と読者、そして青木悦さん。計14人の参加。みなさん『黙婆』を読んで自分の子ども時代、自分と子どもとの関係に引き寄せていろんな思いを語られた。

「子育て」という言葉には、親と子の縦の関係がみえるけれど、子どもは「育つ」。〝親〟に育てられなくても育つ力をもっている。

温かいご飯と布団があって、傍らに信頼できるおとな（親でなくても）がいれば、子どもは自分の力で育っていく。けれど、そうできない現実をどうしたらいいのか。

悦さんは「大変な人がひとりでも大変じゃなく生きられる世の中に」と、希望を語られた。

【人と人がつながる講座　6/9】

『子どもの声を聴くとは』の講座の中で、今までこんなふうにきかれて嫌だった、こんなふうにきいてもらって良かったということをペアになって話しあう時間があった。自分の快・不快を感じてみた。

「自分が話しているとき、話を取られるのは嫌だった」「恐いことがあったとき、すぐ電話に応じてもらえて安心だった」「子どもの話をきいていたつもりだったのに、きいてもらってることもあった…」「先入観を持たず、自分の価値観を押し付けず、指示や命令をしない」「アドバイスや説教・説得をしない」「相手を変えようと思わない」などフンフンと納得できる。

自分は、家族になると聴けなくなっていることに気づく。「こうしたら良いのに」「こうするべき」と思うこともあり、受容と共感はどこにいってしまったのか？の日常の中、ひさしぶりにワークに参加して、「きく」自分を取り戻せそうな気がした。新しい方との出会いと、自分自身との出会いがあった。

【子どもの権利スタンプラリー検討会　5/17 】

子どもの権利スタンプラリーは、子どもたちに子どもの権利を知ってもらうために作られました。

自分には、基本的な人権（生きるために必要な当たり前の権利）があるのだということを、まず知ることが必要です。そうすればそれを使うことができます。

子どもの権利って何かな？子どもや私たちにどんなかかわりがあるのかな？一緒に考えませんかと広報された検討会に、参加しました。

当日は、子どもとの出会いを想像し、今の社会の状況を重ねながら話し、言葉を探しながら変更案を考えてみました。一部を紹介します。

子どもはじぶんのことをきめるとき、きもちや『いけん』を、じぶんのつたえたい方法でいうことができます。まず、おとなは子どものはなしをぜんぶききます。

⬇

子どもは社会の一員です。いろんなことについてきめるとき、自分のきもちや『**いけん**』を、じぶんのつたえたい方法でいうことができます。おとなは子どものはなしをさいごまでききます。

第12条【意見を表す権利】

子どもは、じぶんのことや、でんわやメールのないようなどしられたくないことは、『ひみつ』にできます。

⬇

子どもは、じぶんのことや、かばんやもちものなど、あなたの『**OK**』なしにみられることはありません。

第16条【プライバシー・名誉は守られる】

子どもは、いじめられたり『ぼうりょく』をうけたりしないようにまもられます。

⬇

むしされたり、わるくちをいわれたり、ぼうりょくをうけたりしてよい子どもは『**ひとりも**』いません。

第19条【虐待・放任からの保護】

＊「人権」ってなんだろう？
人がしあわせに生きていくために、あたりまえにもっていること、生きるためにしていいこと。

⬇

人が平和に生きていくために、あたりまえにもっていること、だれにもうばわれないもの。

【おたより～Aさんの望み～】

＊＊＊　小学１年生。新しい生活にも慣れ、夏休みにお泊まりキャンプに行かないかと誘われたＡさん。わくわくしたのもつかの間、定員枠から外れました。

大泣きのＡさんに親は、空いている日程もあるけれど、その日は地元のお祭りがあると伝えると、泣きながら「両方行きたい」と、くり返します。

結構長い泣きと沈黙の後、親は「どっちを選んでも、Ａさんの望みがなるべく叶えられるようにするから教えてほしい」と伝えたそうです。

すると、「自分だけでお泊りしたかった」と話してくれ、祖父母の家に1人で泊まる提案から、笑顔になり、Ａさんのわくわくは続いたそうです。

＊＊＊

どうしたいのと聞いてもらう子どものけんり。そこから、子ども参加の社会を求め続けていきたいと、改めて感じました。